

くらしのスタジオ

<http://www.cinq-sd.co.jp>

平成26年9月発行
生活デザイン設計室 株式会社 サンク

情報誌

今回の特集では、女性と住まいを取り上げてみました。
この10月、サンク（女性だけのインテリア設計・デザイン事務所）を立ち上げ、満30周年を迎えました。
子育てと仕事の両立を目指して起業した事務所ですが、この30年の間に女性の仕事も住宅も大きく変化しました。

こうして続けてこられたのも皆様のお力添えのおかげとこころよりお礼申し上げます。



4月、仙台郊外の被災地の仮設住宅を訪問しました。

今回、訪れた仮設住宅は宮城県産の木材による外壁。木材を使うことで同じ仮設住宅でもこんなに雰囲気が違うのかと驚きです。木のぬくもりがこころを和ませ、住まいが変われば、こころも変わる実感です。

今年はまた多くの自然災害が発生し、多くの方が尊い命をおとされております。ここよりご冥福をお祈り申し上げます。

2014
秋号（季刊）

Vol.10

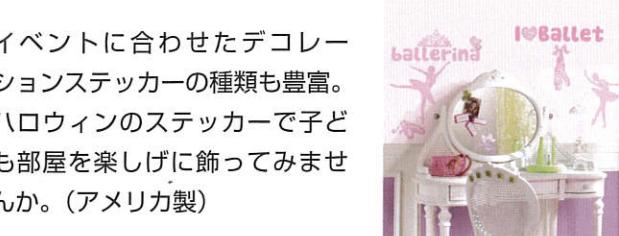
WEB SHOP を立ち上げました！

4月よりサンクのホームページからインテリア商品のお取り寄せができるようになりました。
限定2種類、どちらも私たちがお勧めしたいワンランク上の商品です。これからもこれぞという商品をセレクトしてご紹介していきます。（連載中の素敵な生き方はお休みしました）

RoomMates PEEL & STICK DECOR ウォールステッカー (ルームメイツ社)



壁を飾るステッカーです。外国では手軽なリフォームアイテムとして人気があります。日本のメーカーも多数ありますが、ルームメイツ社の商品は発色の良さと、何回使っても壁紙に吸い付くように綺麗に貼れるのが特徴です。



イベントに合わせたデコレーションステッカーの種類も豊富。ハロウィンのステッカーで子ども部屋を楽しげに飾ってみませんか。（アメリカ製）

トルコのインテリア商品 キリム



キリムは、トルコの伝統的な織物。2000年も前から受け継がれてきた女性の手仕事。

模様は暮らしの様々な思いから生まれ、その家族に代々受け継がれて行きます。ラグとしてだけでなく、家具の張り地としても使われます。写真のようなクッションやオットマンは手ごろな商品としてお勧めです。オーナーが現地に出向き、自分自身の目で直接買いついた品物です。

サンクの お勧めアイテム NO2

黒板塗装

～からだにやさしい塗料を使い
我が家家の壁をキャンバスに～



●オーガニックチョークボードペイント

壁は、面積が広いだけにインテリアとしても大きな役割を果たします。そこで最近注目されているのが、壁に落書きができるようになる黒板塗装です。材料の塗料はオーガニックの天然素材、小さいお子様が誤って口に入れても無害、ニオイもなくからだに付着しても水溶性だから水で簡単に流せます。色は23種類。（エコス社・アメリカ製）

★塗り方 下地材（プライマー）を塗り、乾燥後にローラーで塗るだけ。

★新商品「空気中のVOC有害物質を除去するオーガニックエアピュアペイント」は、空気中の有害物質を70%除去。空気清浄につながるので、建材の有害物質に敏感な方、ハウスシックの方におすすめです。

黒板塗装についてのお問い合わせ・お取り寄せ希望の方は、お気軽にサンクへ

皆さまのご感想、投稿をお待ちしています！



生活デザイン設計室 株式会社 サンク

一級建築士事務所

営業時間／am.9:30～pm.7:00 定休日／日・祝日

Cinqはフランス語で「5」。私たちは、1984年に女性5人で設立した建築設計、インテリアデザイン事務所です。

[仕事内容]

- ・住まいの新築・建て替え
- ・インテリアコーディネート
- ・戸建て、マンションのリフォーム
- ・住まいのグリーンインテリア

〒164-0011

東京都中野区中央5-40-18 キャピトル丸山1階

Tel / 03-3383-5039 Fax / 03-3384-3462

E-Mail / info@cinq-sd.co.jp HP / www.cinq-sd.co.jp

お問い合わせは
フリーダイヤルで

0120-72-5039

●ギャラリースペースをお貸します！
サンクのくらしのスタジオの壁面をギャラリースペースとしてお使いになりませんか？
詳細は、お電話、メールにてお尋ねください。

●毎週土曜日に“住まいカフェ”を開催
家のことを色々と考えてみませんか？
地域の住まいの相談役をお受けしています。
相談したい方、事前に予約をしていただけると
ありがとうございます。



女性と住まい



女性と住まいパネル展
 • 11月 6日(木)から
 11月11日(火)まで
 • サンク(暮らしのスタジオ)
 • 10時~18時
 ※関連図書も展示します。
 ご自由にご覧ください。

女性の立場で住宅の仕事にかかわらせていただき当事務所は、30年という節目を迎えた。今日、女性が大工になることも珍しいことではなくなり、建築関係の仕事には多くの女性がその職についています。

特に住宅の設計に関しては、生活実感があるからとハウスメーカーでは住宅設計に携わる女性を積極的に採用するようにもなっています。

思いおこせば、私たちがこの事務所を開設した当時、主婦目線を生かしての住宅作りを目指し、消費者と企業をつなぐコンサルの仕事をさせていたただくことが多かったです。

たとえば、子どもと会話しながら作業ができる対面キッチンや主婦にとって使いやすいキッチンセット（どこに何を収納すると便利か）、鏡の後ろに化粧品や小物がおさまる洗面化粧台など・・・便利で使い勝手の良いアイデアを思いついては、提案してきました。

それから30年の間、アイデアは当たり前のこととして住宅に根付いています。女性建築家の第一号が誕生して60年余、そして私たちの事務所もたかが30年されど30年という月日の重みを感じます。

女性と住まいのパネル展の開催

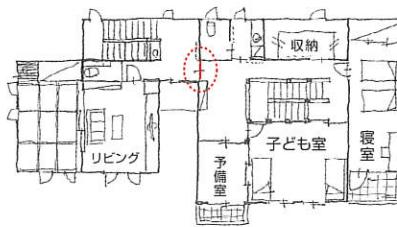
この30年の節目に当事務所で女性と住まい展を開催いたします。

女性建築家第1号の「浜口ミホさん」が取り組んだダイニングキッチン等、住まいの変遷を少しお知らせできればと思います。建築家浜口ミホさんは、昭和30年代に当時の若い世代の憧れの住宅公団のダイニングキッチンを提案し、世に広めた方として有名です。

そして、このダイニングキッチンの普及は、台所という暗くて孤立した主婦の仕事場を明るい家族のキッチンへと替え、日本の住宅の間取りの在り方を大きく変え、女性の地位の向上にも貢献してくれました。

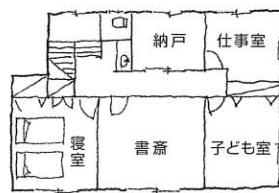
女性に使いやすい間取りとは？

■ 3年前 建て替え 2世帯住宅



7年前、偶然、浜口ミホさんが設計したお宅をサンクがリフォーム。そのご縁で、4年後に2世帯に建て替え

■ 女性建築家第1号「浜口ミホさん」の設計



40年前とは思えない
斬新な間取りと生活様式
つかず離れずが理想と完全に2世帯分離。でも「行って
きます。お帰りなさい」の気配は感じたいとの要望で玄
関を1つに。防火引き戸で2世帯の行き来は自由。窓ガラス越しにお互
いの家の様子も見られて安心。娘さん世帯は、水周りを1ラインにして
家の効率化をキープ。娘さんは3人のお子さんを育てながらのキャリ
ア。超多忙な中、食事作りが息抜きになるのだと。キッチン革命の先
駆者浜口さん設計の住まいで育ったせい？
女中部屋（今や死語？）があつて当時の暮らしがうかがえる。キッチンにステンレスの流し台、ダイニングとキッチンの間仕切りは、両面
使いのハッチ、上部にはガラスをはめ込みキッチンへの採光を確保。
ハッチも食器棚も入れるモノにあわせて作った特注家具。当時は珍
しいキャリアウーマンのお宅にふさわしい設計。住み手の気持ちがわ
かるからと女性建築家の浜口さんに依頼されたとか。

特別寄稿

住まいの哲学

今回は、女性の建築学士でおられる中島明子先生（和洋女子大教授）にこれから「女性と住まい」について寄稿していただきました。

第十回 「女性建築家——ザハ・ハディドの新国立競技場案がゴキブリに見える時」

2013年9月に2020年の開催される東京オリンピック・パラリンピックが決まりました。

その前年には新国立競技場の設計競技がおこなわれ、1等に、イラク出身の英国の女性建築家ザハ・ハディドが選ばれている。

ザハ・ハディドの建築家としての活躍は目を見張る。2004年には女性初の建築のノーベル賞、プリツカー賞を受賞している（2010年に妹島和世さんが女性で2人目の受賞者となりました）。ポストモダンの流れにある脱構築主義のザハの作品は、新国立競技場の案と同様に、大胆な曲線を使つて見るものを圧倒させる。

しかし、建築家槇文彦氏の論文を契機に、国立競技場建て替えそのものに異議が申し立てられた。建て替え決定経過の非民主制、当選案のスケールアウト、地域の歴史や景観への配慮の

なさ、将来にわたる財政負担の問題も浮き彫りになつた。建築は、そこに建てられることによって、その地域の空間を変更する。それが、地域の人々の生活や、歴史的・社会的・文化的資産として価値あるものなのかを検討する必要がある。その点はどうであつたかが彼女に問われている。こうした経過を経る中で、ザハ・ハディドの案は、「ゴキブリ」に見えるようになつてきました。

この問題は、建築という男性領域に女性が進出しつつある今日、「建築における女性」をもつと深める段階にきていることを意味している。性別役割分業を背景に、「女性の方が家事・育児・介護に深くかかわっているから、住宅は女性建築家がよい」というのは、男性が見落としてきた領域を埋める作業であり、住み手に対しても心地よい住まいを提供する。しかし、世界の妹島さんの住宅（例えば岐阜県営住宅ハイタウン北方）は、創造的空间を提示しているが「住みやすい」とはいえない。

つまり多様な人々が暮らす生活空間をよりよい方向に向けてゆくために、より重要なことは、男性領域として形成してきた生活空間を、多様な住む人・使う人の立場にたち、空間を変えることへの責任として、地域の歴史・文化を継承し、景観を保持し、住む人と環境に大きな

〈特別寄稿によせて〉

今回、中島先生に特別寄稿をお願いしたのは、女性の活躍に住まいは大きくかかわっているように思えたからです。一昨年、たまたま、女性の建築家の歩みというパネル展示を見て、建築に携わる女性の歩みを当事務所で少し紹介してみたいと思いつきました。私たちの師である故岡本敦先生は、これから住まいは女性の手でつくらなければというのが口癖でした。日々の仕事の中ではこのことは実感していましたが、中島先生の御意見のように住もう人の生活空間のギアエンジンは、男女ともに参画することから始める必要があるのでしょう。これから先、どんな間取りが主流になるのか楽しみです。



中島明子さんのプロフィール

京都大学工学研究科建築学専攻修了、博士（工学）著書『英国民居語ナショナルトラストの創始者オクタビア・ヒル伝』他多数。日本住宅会議理事 東日本大震災ネットワーク共同代表 女性と貧困、ホームレス問題などに取り組む。